

男女共同参画推進連携会議「次世代への働きかけ」チーム第4回会合議事概要

1. 日 時 : 平成29年4月25日(火) 15:00～17:00
2. 場 所 : 中央合同庁舎8号館4階416会議室
3. 議 題 :
 1. チーム構成団体等における取組事例
 - ・日本労働組合総連合会における取組
 - ・WAW!2016 スペシャル・セッション ユース・テーブル「若者が作りたいジェンダー平等社会とは ～現状と課題～」
 2. 地方自治体における取組事例
 - ・香川県「女子学生による私の未来発見事業」
 3. 意見交換

4. 出席者 :

(有識者議員)

石井議員、大崎議員、徳倉議員、林議員、室伏議員、山屋議員

(団体推薦議員)

田丸議員、浅野議員、降旗議員、橋本議員、星議員、小栗議員、柿沼議員、赤池議員、海野議員、糸数議員、川名氏(川口議員代理)、村岡議員、功刀議員、金野議員、鳥澤議員、宮木議員、名取議員、小林議員、佐藤議員、山本議員

(外部発表者)

- ・manma 代表 新居 日南恵氏
- ・G8 & G20 Youth Summits Japan 代表 大崎 一磨氏
- ・上智大学法学部 山本 朱音氏
- ・特定非営利活動法人BONDプロジェクト 森田 明日香氏
- ・香川県政策部男女参画・県民活動課 逢阪 晃子氏
- ・徳島文理大学香川薬学部 丸岡 優氏
- ・徳島文理大学香川薬学部 山田 里緒氏

(事務局)

武川 内閣府男女共同参画局長、岡本 内閣府大臣官房審議官(男女共同参画局担当)、岡田 内閣府男女共同参画局総務課長、石橋 内閣府男女共同参画局男女共同参画推進官、大川内 内閣府男女共同参画局政策企画調査官

5. 議事概要

○議題1のチーム構成団体等における取組事例「日本労働組合総連合会における取組」について、資料1に基づき山本議員より発表があり、質疑応答を行った。主な意見は以下のとおり。

- ・日本労働組合総連合会における職員の女性割合はどれくらいか。
→職員全体では4割程度である。管理職においては、もう少しで3割となる。また、本部のみならず、地方連合や構成組織に対しても2020年までに役員・機関会議の女性参画率3割を達成するよう提起しており、組織のリーダーを訪問し、男女平等におけるそれぞれの組織

の実態や課題などに関する意見交換等を行っている。

- ・次世代への取組として、今後の展望はあるか。

→作成した冊子を大学に置いてもらったり、構成組織を通じて若い方々に配布してもらったり、大学における寄付講座で配布したりしている。地方によっては就活イベントに当連合のブースを設置し、話をしたり冊子を置いたりしている。また、そのような地方連合会や構成組織における取組の好事例集を作成し、発信している。

○議題1のチーム構成団体等における取組事例『WAW!2016 スペシャル・セッション ユース・テーブル「若者が作りたいジェンダー平等社会とは ～現状と課題～」』について、資料2に基づき大崎議員、新居氏、大崎氏、山本氏、森田氏より発表があり、質疑応答を行った。主な意見は以下のとおり。

- ・学生運動以降、政治の話などを教育の場でディスカッションすること自体がタブーとされてしまう場合もあると思うが、これまでそのような経験をしたことがあるか。またその改善策はあるか。

→同年代との日常会話の中で、政治や新聞の話などをすると、気取っているというような意味合いで「意識高い」と言われてしまう。日常会話で政治等の話をするのはまだ難しい現状にあると感じるが、学校の授業などで議論することはできると思う。また、アメリカに留学した際に、ディスカッションすること自体について、日本とのギャップを感じたので、若者も外国へ出ていくとよいと思う。

→日本では、若者が声をあげても聞いてもらえない、意味がない、と思われがちであるため、若者の声も大事であるという雰囲気をも日本でも作ってほしい。

- ・若い人に取組を広げるために工夫している点や苦労している点は。

→仕事と子育ての両立に不安を抱えている若者が多く、それを友達に言えなかったり、就職を希望する企業に聞けなかったりするが、SNSで家族留学の取組について掲載することで、情報を知り、安心してもらうことができていると思う。

- ・WAW!2016で登壇した後、世間の変化を感じたことはあったか。

→まだ世間の変化までは感じていないが、自分自身の選択肢が増え、またその行動をみて自分の周りにも様々な選択肢があることを伝えられた。

→WAW!2016において、ユースの発言の場が実現できたことに意義があったと思う。若者が声を上げることから、少しずつ世の中が変わっていくと感じている。

- ・20代の専業主婦志向がまだ強く、固定的な役割分担意識が肯定されている現状がある。今後大人が集まる会議に、若者の生の声を聞かせてほしい。

→若者に専業主婦志向が強いという話には違和感を覚えている。今の若者の親世代には専業主婦が多いため、共働きをした場合に子供のそばにずっといてあげられなくなることに葛藤を抱えている場合が多く、働く意欲がないのではない。そういった生の声を聞く機会としても、ぜひ今後も声をかけてほしい。

○議題2の地方自治体における取組事例について、逢阪氏より、「女子学生による私の未来発見事業」についての説明、丸岡氏、山田氏より、当事業に参加して学んだことや感想について発表、作成した動画の放映があり、質疑応答を行った。主な意見は以下のとおり。

- ・インタビューや動画作成を通じ、今しかできないこと、好きなことを追い求めることが、続けることにつながるということを実感したという話があったが、それは自身の研究を続けていく決意になったか。
 - 当事業でインタビューを行った研究者の向井さんに出会うまでは、県内の病院の薬剤師になろうと思っていたが、向井さんと出会って、今の研究室に所属するきっかけになり、研究ができています。将来、研究者になるかはまだわからないが、学生だからできる研究など、一生懸命、今できることに取り組んでいきたいと思っています。
- ・作成された映像は大変すばらしかった。WEB や SNS など発信していく材料として映像には力があると思う。撮影や編集を通じて学んだことや苦労したことは何か。
 - たった5分の映像だが、インタビューだけでも20分以上あり、他にも良い映像がたくさんあったが、その中でも特によい部分を選び、5分に収めるのがとても大変だった。研究が好きで、また、人を助けたいという気持ちで研究されている向井さんが、どのようなことを伝えてくれたのかを一番に考え、それを伝えられるように表現することを学んだ。
- ・当事業は学生が主体的に参加するイベントであるため、学生への負荷も大きく参加のハードルが高いと思うが、香川県では参加者をどのように集めたのか。また、参加した学生はどのような経緯で参加したのか。
 - 公募するとともに、大学等に出向き説明をしたところ、7チームの応募があった。
 - 大学の先生から、向井さんと仲良くなれるしやってみないかとお話をいただいた。向井さんは自分の大学のスーパースターであり、香川県を代表する研究者であったので、ぜひ映像を通じて向井さんのことを広く発信したかったし、中途半端なものは作れないという気持ちもあって頑張ることができた。
- ・当映像には向井さんの上司も出てきたところがポイントであると思う。今の日本は、個だけの努力だけではなく、周りの協力があって、成功事例が出てくる。そのことを、当事者だけでなく、男性へのメッセージとしても拡散できていることが素晴らしい。

○議題3について、今後のチームの展開についての意見交換を行った。主な意見は以下のとおり。

- ・今回、若者の声を聞いたのは貴重な時間であった。このような機会を増やしていくべきである。ジェネレーションギャップがある中でコミュニケーションをし、その内容をYoutube等で拡散することができるとうい。また若年女性の問題など、触れにくい課題についても、弱い立場の当事者に配慮しながら、扱って行けるとよい。
- ・若者の声が届きにくい状況にある。当会合のような場で声を聞くこともよいが、ここだけで終わらせるのではなく、様々な場所で、対面して若者たちの話を聞く機会が実現できるとよい。また、地域で活動している人も上手く組織できたら良いのではないか。
- ・ジェンダーに限らず、国際的な活動をしている大学のサークル等とつながりを持ち、そこでジェンダーについて議論してもらうようなことができれば、若者も集まりやすいのではないか。また、その参加者が核となって、議論したことを大学に持ち帰って、拡散してもらえるとよいのではないか。
- ・若者が若者に対して働きかけをしている活動について話を伺ってみたい。大人が若者に対して物申すより、若者のことを一番わかっているのは若者であり、同世代同士で伝えていくことが重要と考える。次のステップとしてそのような機会を設けてほしい。
- ・PTA 会長や地方議会に女性が少ない現状がある。地方の方に、実際何が問題になっているの

かを伺いたい。

- ・首都圏と地方の若者たちをつないで、様々な論点で対話していくことができるとよい。首都圏の若者は地方の実情を知らなかったり、地方の若者は首都圏において国際的に進んでいる取組が伝わっていなかったりすると思う。また、当チームの構成団体には若者と接点を持っている団体も多いので、若者にどう参画してもらおうか考え、世代を超えた対話の場ができるとよい。
- ・日本では制度すら追いついていない、若年女性の問題に目を向けていかなければならない。当事者の話を直接聞くのは難しいが、当事者とつながりのある Bond プロジェクトのような組織の方から話を伺って、法整備や制度改革に取り組むべきである。
- ・「都道府県別 男女共同参画に向けた若年層への働きかけに関する取組一覧」について、今後は、他団体に取り組む際に参考にできるような先進的な好事例を抽出、収集していくとよい。
- ・次世代の話を聞くことが大事であると痛感したので、年に1度くらいはチーム会合で大学生や中高生に来ていただいて、話を伺いたい。
- ・団体横断的なプロジェクトをできるとよいと考えている。また、ロールモデルを提示することは次世代に大きな影響があるため、各団体のネットワークを活用し、各団体で活躍されている方をシンポジウム等で登壇してもらい、都心開催のみならず地方開催や、オンラインでの動画配信などもできるとよい。
- ・CSW でも政府代表の中にユースを加えることとしている。当チームのメンバーとしてユースが参加することも検討するとよい。
- ・全国の学生が企画運営し、救命技術などを競う、学生メディカルラリーという取組があるが、忙しい学生たちが取り組んでいる理由の一つは「楽しい」からである。若者に対して、特別なことではなく、楽しいと思える企画が開催できたらよいと思う。
- ・好事例などが部局内で留まってしまうと残念である。他部局や、部局のトップから裾野まで、また大学生の事例も中高生まで、幅広く情報を届けるべきであり、その流れをチームメンバーで作っていくべきである。

○最後に徳倉議員より、2年間のチーム活動の実施概要については、6月上旬に予定されている企画委員会にて報告することについて発言があった。

以 上